



りんごのきのした農園 2024 / 2025年 ご案内

猛暑が続いていますが、気候変動や資材費の高騰が私たちに影響を及ぼす中、今回はポジティブな視点で農業の未来についてお話ししたいと思います。

昨年から、私は公の場や大学生に農業の将来について語る機会が増えてきました。特に若い世代から好評を得ており、農学部を新設する大学もあると聞いていますので、20代の

農業への関心が高まっていることが伺えます。しかし、若い人たちが即戦力とし



東京農工大の学生の皆さんと

て農業に参加するには、現実的にはいくつかのハードルがあるのも事実です。農業の労働環境は厳しく、収入に対して労働が過酷であるため、職業としての魅力が少ないことも多いです。特に独立就農には高い資金準備が必要で、その難しさは言うまでもありません。

もし大学を卒業したばかりの若者が「農業を始めたい」と相談してきたら、私はこうアドバイスします。『農業を始める前に、まずは社会人経験を積み、異なる文化や業種を経験しながら資金を貯めることをお勧めします。その経験が農業に関わる際に大いに役立つでしょう』と。驚かれるかもしれませんが、農家の跡取りであっても、まずは他の世界を経験することをお勧めします。

農業問題や食料問題に関しては、予測困難な現代の状況を考えると、従来のビジネスモデルや資本の枠組みだけでは対応が難しくなるでしょう。現場の変化を素早く捉え、観察やデータに基づいて柔軟に対応する能力が、

これからの農業には不可欠です。農業に対する愛着を大切にしつつも、旧態依然とした方法に固執することが本当に良いのか、新規に農業を始める方には一度立ち止まって自問自答してみてくださいと思います。

私たちの元職場の JICA では、海外協力隊（ボランティア）派遣事業が行われており、これは多様な途上国での経験を通じて社会課題に向き合うプロセスで、柔軟な能力を養うことができます。実際に、多くのボランティアが帰国後、農業や地域運営で活躍しています。この事業は日本の農業や地域運営に貴重な人材を生んでいるのです。今年私たちの農園で収穫した果物や野菜は、駒ヶ根市の青年海外協力隊訓練所で訓練していたボランティアが管理を手伝ってくれました。彼らには感謝の気持ちと共に、異文化の中で大きく成長してほしいというメッセージを送りました。

駒ヶ根市は信州の地方都市ですが、国際協力を核にしたユニークな交流の場があります。地域づくりと国際協力の世界を見に、ぜひ駒ヶ根市を訪れてみてください。

さて、そんな前職の繋がりでご縁がある認定 NPO 法人 ESA アジア教育支援の会へは今年も売上金の一部を寄付します。今回は ESA の大人気の本格カレースパイスをご紹介します。(P7にて) 当園のサリカ米と共に、本格的なスパイスカレーをご自宅でお楽しみ下さい！



最後に、メールマガジン登録のご案内です。Web 限定販売の商品はメルマガでご案内していきますので、未登録の方はぜひご登録を！メルマガ登録 QR→



2024年 8月 りんごのきのした農園 木下 佳信・亜紀